「におい・かおり環境学会誌」執筆要綱

（令和6年1月25日改定）

1.　総　則

本誌は，においとかおりに関連した諸分野について，価値のある論述，調査，研究技術開発の成果およびこれらに関する資料，情報などを掲載するとともに，におい･かおり環境協会と会員の活動などに関する情報などを提供する．

2.　誌　名

(1)　日本名　におい・かおり環境学会誌
(2)　英　名　Journal of Japan Association on Odor Environment

3.　掲載内容など

掲載内容とその種類・区分は**表－1**に示すとおりとする．

報文（研究論文，技術論文），ノートについては査読を行う．他の投稿原稿については編集委員会において内容検討を行う事がある．

表－1　掲載文の種類

	種　類	区　分	標準ページ数
1	巻頭言	依頼	1
2	特集，総説，論説	依頼，投稿	6
3	報文※（研究論文，技術論文）	投稿（査読）	6
4	ノート※	投稿（査読）	2～4
5	解説，講座	依頼，投稿	6
6	調査報告	依頼，投稿	6
7	訳文	依頼，投稿	6
8	技術資料	依頼，投稿	6
9	製品，装置，特許紹介	依頼，投稿	6
10	会員の声	投稿	1以下
11	文献紹介	編集委員会	
12	図書，出版物紹介		
13	官公庁ニュース		
14	協会ニュース，会報		
15	業界などの情報		
16	その他		

4.　報文（研究論文，技術論文），ノートの投稿規程

(1)　総　則

においとかおり環境に関連する基礎研究，応用研究ならびに事例紹介などで独創的，萌芽的または価値のある知見を含み，会員である読者が容易に内容の理解，あるいは知見の利用ができるように，できるだけ平易に記述したものとし，いずれも本誌に投稿される以前に他誌に公表されていないものとする．ただし，大学紀要，研究所報などに発表されたもの，国，地方自治体，業界，団体からの委託研究の成果報告書などに記載されたものについては，投稿を認める．その場合は，発行物に掲載された内容のコピーを添付する．

なお，学会，シンポジウム，研究発表会，国際会議などで発表されたものについては，投稿を認める．

(2)　言　語

原則として日本文または英文とする．

(3)　投稿原稿の内容

査読対象となる投稿原稿は，原則として以下に規定される内容を含むものとする．

1）報文

信頼性が高く，学術的または技術的に価値があり完成度の高いもの．

a）研究論文　独創性のある理論的または実証的な研究

b）技術論文　新しい知見を与える有用性，実用性に富んだ実測，実験，調査などの研究

2）ノート

断片的ではあるが，有意義な知見と技術，興味ある実験結果など成果が簡潔に記されているもの．（完成度が高くなれば報文として投稿できる．）

(4)　報文およびノートの構成と内容

表－2（1）および**表－2**（2）に示すとおりとする．

(5)　投　稿

1）会員であることを原則とするが，会員1名を含めば会員外でも投稿することができる．ただし，ノートの場合は会員外でも投稿することができる．

2）投稿原稿は本執筆要綱と執筆の手引きに従って作成する．

3）投稿原稿は，電子媒体により提出する．電子媒体

※においとかおりに関連した諸分野の例

規制と政策，大気環境，住・作業環境，食品のにおい・かおり，におい・かおり成分の分析・測定，におい・かおり成分の解析・評価，官能評価，嗅覚生理・心理，消・脱臭技術，防脱臭装置の特性・性能，かおりの活用など

Presented by Medical*Online

表－2（1） 報文の構成と内容

項目		項目の表示例	主な内容
1	表題		表題，著者名（姓名），所属機関名，所在地（郵便番号も含む），責任著者連絡先（電話番号，E-mail，FAX 番号）とこれらに対応する英語を併記．責任著者は*で示し，E-mail はフッターに記載すること．詳細は執筆の手引きを参照
2	要旨		本文の内容の要点について全文を通読した場合と同様に伝えることができるもので，具体的に記述（400 字以内）
3	キーワード		日本語およびそれに対応する英語とし，報文の内容が分かるような熟語を本文から選ぶ（5 ワード程度）
4	緒言		関連文献を挙げて本報文の背景，目的および意義などを記述
5	実験材料と方法	実験材料と実験方法，解析方法，調査方法	研究，実験などに関する装置，原材料，方法，解析，調査などに関する手法，手段に関する記述
6	結果および考察	研究，実験，解析，調査の結果，成果およびそれらに対する考察など	研究などの結果，成果ならびに考察，評価，論述，知見の整理，既知見との関係を記述 ・研究方法，解析方法，数式の誘導や展開の過程とその際の前提・仮定条件，特殊な記号や用語，難解な術語など ・追試，検証ができるような補足 ・内容理解に必要な資料，数表，コンピュータープログラムなど
7	結語	結論，結言	研究などの目的から結論に至る全体把握ができるように記述
8	参考文献	参考文献	＜執筆の手引き（報文）参考文献の記載例を参照＞
9	補遺	補足，注釈，参考資料など	読者の内容理解が容易になるように補足，注釈，参考資料などを補足記述する．
10	英文要旨		和文要旨の英訳（200 語程度）したもので，十分な英文推敲が行われていること（表題，著者名，所属，所在地も記載）

（注）1. 研究方法は他の研究者などが追試，検証できるように，要領よく丁寧に記述する．記述が長くなるときには補遺で説明する．
2. 内容は，原則として専門分野の異なる者にも概略が十分に理解できるものとする．
3. 研究に使用されているサンプル名や研究場所，時間を特定することで第三者の不利益になる可能性がある場合は，編集委員会の審査を経たうえで，サンプルが特定できないような記載も考慮する．

表－2（2） ノートの構成と内容

項目	主な内容
表題	表題，著者名（姓名），所属機関名，所在地（郵便番号も含む），責任著者連絡先（電話番号，E-mail，FAX 番号）とこれらに対応する英語を併記．責任著者は*で示し，E-mail はフッターに記載すること．詳細は執筆の手引きを参照
要旨	本文の内容の要点について全文を通読した場合と同様に伝えることができるもので，具体的に記述（200 字以内）
キーワード	日本語およびそれに対応する英語とし，ノートの内容が分かるような熟語を本文から選ぶ（5 ワード程度）
本文	目的を明確に記述 研究，実験などに関する装置，原材料，方法，解析，調査などに関する手法，手段に関する記述得られた知見や技術，実験結果などの成果を簡潔に記述
参考文献	＜執筆の手引き（ノート）参考文献の記載例を参照＞
補遺	読者の内容理解が容易になるように補足，注釈，参考資料などを補足記述する．
英文要旨	和文要旨を英訳（200 語程度）したもので十分な英文推敲が行われていること（表題，著者名，所属，所在地も記載）

（注）1. 本文の作成は，執筆の手引き（ノート）を参照する．
2. 研究方法は他の研究者などが追試，検証できるように，要領よく丁寧に記述する．
3. 内容は，原則として専門分野の異なる者にも概略が十分に理解できるものとする．
4. 研究に使用されているサンプル名や研究場所，時間を特定することで第三者の不利益になる可能性がある場合は，編集委員会の審査を経たうえで，サンプルが特定できないような記載も考慮する．

Presented by Medical*Online

の提出が難しいようであれば紙媒体の提出も可とする．電子媒体の場合は，PDF形式で提出する．紙媒体の場合は，正1部，副3部を提出する．

4）原稿の長さは原則として，1編当たり刷り上り報文6ページ，ノート2〜4ページ以内（図，表を含む）とする．

5）原稿は本会編集委員会宛に送付する．編集委員会到着日を受付日とする．

6）投稿カードを原稿の頭に付ける．

7）英文による投稿について

a）投稿前にネイティブによる英文校閲を受ける．

b）原則として表題，要旨，キーワード，本文について英文に対応する日本文を添付する．

(6)　審　査

1）投稿原稿は複数の審査員によって審査され，その採否は編集委員会が決定する．

2）報文およびノートの査読の判定基準は以下のとおりである．

a−1）報文では目的に対しての相当する結果が得られているか．提起した問題，導入した概念や方法，発見した事実や法則の新規・独創性および得られた結果の学術的および技術的な新規性・有用性があるか．

a−2）ノートでは目的に対しての相当する結果が得られているか．有意義な知見と技術，興味ある実験結果であるか．

b−1）報文では論旨，論拠の妥当性，方法（実験，調査など）とその結果の信頼性・再現性および研究展望，研究の位置付けなどが明快に記述されているか．

b−2）ノートでは実験，調査などの方法とその結果が簡潔にまとめられているか．

c）表現，用語や関連文献引用の適切さおよび商業主義からの中立性があるか．

d）ヒトを対象とした実験に基づく報文およびノートは，次の①，②または③を満たしていること．

①いわゆる「ヘルシンキ宣言」(1964年承認2008年改訂）の精神に則って行われた実験であり，研究者の属する機関の倫理委員会などの承認を受けたものであることが本文に記載されていること．

②実験は，一般的な基準（嗅覚測定法安全管理マニュアル*など国が示す指針）を参考として行われたものであり，その旨の記載が実験方法にあること．また，実験にあたっては，被験者に対し，実験内容等についての十分な説明を行い，実験中も途中辞退が可能である点を伝え，同意を得たうえで行われたものであること．あわせて全て実験者（執筆者）の責任のもとに行われたものであること．（インフォームドコンセントを得ていること．）

*環境省環境管理局大気生活環境室：(平成14年12月)，“嗅覚測定法安全管理マニュアル”，p1-p30，環境省．

③アンケート調査・インタビュー調査の場合も倫理審査またはインフォームドコンセントを得ていること．

e）動物を対象とした実験に基づく報文およびノートは，「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」(平成18年環境省告示第88号）を遵守して行われた実験であり，研究者の属する機関の該当する委員会などの承認を得ていることが本文に記載されていること．

3）編集委員会は投稿原稿について，加筆，修正，補足，削除，訂正を求めることができる．これらの変更に要する期間は，ノートにおいては30日以内，報文においては60日以内とし，これより遅れた場合は新規投稿として扱う．

4）査読の結果「採用」の報文およびノートには受理日を明記する．受理日は，掲載可に決定した期日とする．なお，ノートは受稿から受理までの期間を原則4カ月とする．

5）査読の結果「再査読」の場合は，修正された原稿について改めて査読を行う．

6）査読の結果が「不採用」の場合で，その不採用の理由に対して，投稿者が明らかに不当と考えた場合には，不当とする理由を明記して，編集委員長宛に異議申し立てをすることができる．

(7)　校　正

著者校正は1回行う．原稿になかった字句などの本文への挿入は，編集委員会が認めない限り許されない．

(8)　費用など

1）投稿料は1編当たり4,000円とする．ただし刷り上り報文が6ページを超える場合には超過分を1ページにつき500円を著者負担とする．（カラーの刷り上がりの場合は実費分を著者負担とする）

2）図，写真などに関しては，「執筆の手引き」による．

3）印刷上の誤りについて発行日から6カ月以内に著者から申し出があった場合には，これを掲載する．

4）印刷上の誤り以外の訂正，追加，補足，削除，修正などについて著者の申し出があり，編集委員会がそれを適当と認めた場合に限り掲載する．

5）別刷りは有料（実費）とする．

6）J-STAGEの電子付録を希望される場合は有料（実

Presented by Medical*Online

費）

5. 報文およびノート以外の掲載文

表－1 の報文およびノート以外の掲載文についてもできるだけ本執筆要綱に準じる．

6. 著作権

1）著者は，掲載文の著作権の使用を本協会に委託する．
2）2024 年 1 月号以降の掲載文は，クリエイティブ・コモンズ【表示 4.0 国際】ライセンスに基づいた CC BY-NC-ND の条件下で掲載される．ただし，CC BY-NC-ND 以外のライセンスの表示を用いる場合には編集委員会の承諾を得るものとする．
3）著者が自分の掲載文を自らの用途のために使用することについての制限はない．
4）編集出版権は，本協会に帰属する．
5）掲載文は，オンラインジャーナルとして独立行政法人科学技術振興機構が運営する「J-STAGE」および株式会社メテオが運営する「メディカルオンライン」に掲載される．また，におい・かおり環境協会の Web サイトにも掲載されることがある．

7. 原稿提出先・お問い合わせ先

〒160-0008
東京都新宿区四谷三栄町 6-6　四谷 MS ビル 4 階
（公社）におい・かおり環境協会
におい・かおり環境学会誌 編集委員会 宛
TEL　03-6233-9011　FAX　03-6862-8854
E-mail kikanshi@orea.or.jp

Presented by Medical*Online

「におい・かおり環境学会誌」投稿カード

発送日　　年　　月　　日

掲載希望欄 （該当を〇で囲む）	・総論，論説 ・報文（研究論文，技術論文）・ノート ・解説，講座 ・調査報告 ・訳文 ・技術資料 ・製品，装置，特許紹介 ・その他（　　）	
題名	和　文	
	英　文	
キーワード	日本語	
	英　語	

著者名 （ローマ字を下段に記載）	会員番号	所属機関名 （下段に英文表記を記載）	所在地 （下段に英文表記を記載）

連絡 兼 責任著者		E-mail	
責任著者		E-mail	
連絡先　住所	〒		
連絡先　TEL			

原稿枚数	本文：　枚，要旨（英文）：　枚，表：　枚，図：　枚，写真：　枚，　合計：　枚

Presented by Medical*Online

ヒトまたは動物を対象（アンケート調査も含む）とした実験の有無（該当を○で囲む）： 有 ・ 無

［実験期間］ 年 月 日 ～ 年 月 日

ヒトを対象（アンケート調査も含む）とした実験の場合は以下についてもご記入ください．

倫理的規範について(1)

1.倫理委員会に諮り，承認を得た ： ［倫理委員会名］ ［承認番号］

2.倫理委員会の承認を得ていない： ［理由］

倫理的規範について(2)

被験者のインフォームドコンセントを得ている： はい ・ いいえ

記入内容に不正が判明した場合は，当該論文の掲載を取り消すことがあります．

編集部記入欄

受稿日	年 月 日	受付番号	
受理日	年 月 日		

Presented by Medical*Online

推薦される査読者の氏名・ご所属（専門分野）・メールアドレスを3名以上、ご記入ください。

氏名		ご所属（専門分野）	メールアドレス
①			
②			
③			
④			
⑤			

注）推薦された方が査読者になるとは限りません。また氏名・ご所属（専門分野）・メールアドレスの入力が必須です。

著作権同意書

年　　月　　日

著作物の種類：	・総論，論説　・報文（研究論文，技術論文）　・ノート ・解説，講座　・調査報告　・訳文　・技術資料　・製品，装置，特許紹介 ・その他（　　）
著作物の表題：	
責任著作者氏名：	
責任著者住所：	〒＿＿＿－＿＿＿＿＿＿＿＿ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
共著者全ての氏名：	・＿＿＿＿＿＿ ・＿＿＿＿＿＿ ・＿＿＿＿＿＿ ・＿＿＿＿＿＿ ・＿＿＿＿＿＿

投稿者は，におい・かおり環境協会発行の「におい・かおり環境学会誌」に投稿された上記題名の投稿原稿について，以下の各項に同意します．

1）著者は，掲載文の著作権の使用を本協会に委託する．

2）掲載文は，クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際（CC　BY-NC-ND）ライセンスの条件下で掲載される．ただし、それ以外の表示を希望する場合には編集委員会の承諾を得るものとする．

CC BY-NC-ND以外の希望ライセンス

右欄より選択	□ CC BY	□ CC BY-SY	□ CC BY-ND	□ CC BY-NC	□ CC BY-NC-SA
希望理由：					

3）著者が自分の掲載文を自らの用途のために使用することについての制限はない．

4）編集出版権は，本協会に帰属する．

5）掲載文は，オンラインジャーナルとして独立行政法人科学技術振興機構が運営する「J-STAGE」および株式会社メテオが運営する「メディカルオンライン」に掲載される．また、におい・かおり環境協会のWebサイトにも掲載されることがある。

Presented by Medical*Online

におい・かおり環境学会誌　執筆の手引き（報文）

嗅覚　太郎[1, 2], 臭気　香[1*†], 三点　次郎[2]

[1]公益社団法人におい・かおり環境協会　〒160-0008　東京都新宿区四谷三栄町 6-6
[2]におい・かおり環境学会誌　事務局　〒160-0008　東京都新宿区四谷三栄町 6-6

この原稿は，におい・かおり環境学会誌の報文の執筆の手引きです．ここに，原稿を作成するのに必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています．この原稿作成例を参考にして，題目や文章，図表などをレイアウトしてください．

この要旨を含め，邦文題目部分の幅は本文よりも左右 13mm ずつ狭くします．要旨のフォントは明朝体の全角 8.5pt を用いてください．報文の要旨の長さは 400 字以内です．

1.　原稿本文

1）原稿は原則として，常用漢字，現代仮名遣いを用いて記述してください．

2）原稿は，平易な表現で丁寧に内容を記述し，記述の内容の解釈が読者によって異なることのないように配慮願います．また，内容の理解に特殊な知識などを要する場合には補遺での解説，補足を付け足してください．句読点は，日本語では全角カンマ「，」と全角ピリオド「．」を用い，英語では半角カンマ・スペース“, ”と半角ピリオド“. ”を用いてください．機種依存文字（① ②③ Ⅰ Ⅱ Ⅲ㊤ ㊥ ㊦など），半角カタカナは用いないようお願いします．

2.　全体のレイアウト

ここでは，原稿全体に関わるレイアウトについて説明します．

2.1　構成

原稿は，次の 3 つの部分で構成します．

①邦文題目部分：横 1 段組
（題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨）
②本文部分：横 2 段組
③英文題目部分：横 1 段組
（題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨，キーワード）

2.2　原稿用紙

原稿用紙は A4 判の縦の白紙を使用し，横書きとします．

2.3　マージン

基本的なマージンは，次のとおりです．

上マージン　：約 25mm
下マージン　：約 25mm
左右マージン：約 20mm
ただし，題目部分の左右マージンは約 33mm

2.4　ヘッダおよびフッタ

ヘッダは事務局で入れます．フッタには責任著者の E-mail，におい・かおり環境アドバイザー資格保有者は資格名称を記載し，中央にページ No.を挿入してください．

3.　邦文題目部分のレイアウト

邦文題目部分は，論文題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨から構成されます．それぞれ，次の順に横 1 段組で記載してください．

主題	：17pt，センタリング
行間スペース	：約 8mm（副題があるとき） 約 8.5mm（副題がないとき）
副題	：10pt，センタリング
行間スペース	：約 8.5mm
著者名（姓名順）	：11pt，センタリング
行間スペース	：約 5mm
所属機関名，同住所	：8pt，センタリング
行間スペース	：約 5mm
要旨	：8.5pt，1 行およそ 50 文字，7 行以内
行間スペース	：約 5mm
キーワード	：8.5pt，5～7 語，2 行以内

4.　本文部分のレイアウト

本文は2段組みとし、文字間隔は，1 段 1 行が全角で約 25 文字，1 ページ約 40 行となるよう調整してください．

本文のフォントは明朝体の 9pt を用いてください．

*Corresponding author : E-mail jaoe@orea.or.jp
ただし、責任著者が 2 名の場合は，*Corresponding authors : E-mail　jaoe@orea.or.jp(T Shuuki)，info@orea.or.jp(J Santen)と表記
†におい・かおり環境アドバイザー

Presented by Medical*Online

脚注は本文の下に線を引き，分けて印字します．脚注は本文の行数には含まれません．

4.1　見出し（見出しが 1 行を超えるときは，この例のようにインデントして折り返します）

報文に関しては見出し・章・節などの表し方はポイントシステムにより，章・節などの文字は用いません．

記述例 ：1，2，3，……

1．1，1．2，1．3，……

1．1．1，1．1．2，1．1．3，……などを用いてください．

詳細は執筆要綱の表－2（1）報文の構成と内容を参照してください．

4.2　数式および数学記号

数式は，次に示す式（1），（2）のように，全角１字分下げて書いてください．

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty} \left(a_n \cos\frac{n\pi x}{L} + b_n \sin\frac{n\pi x}{L} \right) \qquad (式 1)$$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \qquad (式 2)$$

数学記号は，文章中に出てくる場合も，数式のフォントと同じものを用いてください．

式番号は括弧書きで右詰めにします．

4.3　図表

1）図・表・写真などは重複を避け，十分に選択の上，最小限にとどめてください．

2）図・表・写真の基になったファイルを 1 枚ごとに別紙（A4）とし，各葉ごとに著者名と図・表番号を右下のところに付けてください（写真は図として扱います）．

3）図・表の番号は図－1，図－2，表－1，表－2 などと記入し，図についてはその下側，表についてはその上側に，その番号および標題を必ず記入してください．

4）図・表には，内容を的確に表す標題を付け，かつ，はっきり見えるものを提出してください．

5）図・表の標題，内容，説明などは和文，英文のいずれかに統一してください．

6）オンライン誌はカラー掲載が可能ですが,冊子印刷はモノクロ印刷となります.もし冊子印刷でカラー図・表の掲載を希望する場合には，投稿の際に当編集委員会までその旨を連絡願います．この場合,その実費は著者負担とします．

7）写真データの解像度は 300dpi 以上とし，データ型式は JPEG などとします．

8）図や写真をスキャンする場合，カラー原稿のスキャンモードは RGB（24bits），解像度 300dpi,JPEG 形式などとします．モノクロ原稿の場合，スキャンモードを Grayscale（8bits），解像度 300dpi,JPEG 形式などとします．

9）図やグラフなどのバックには色や灰色を使わず白とします．

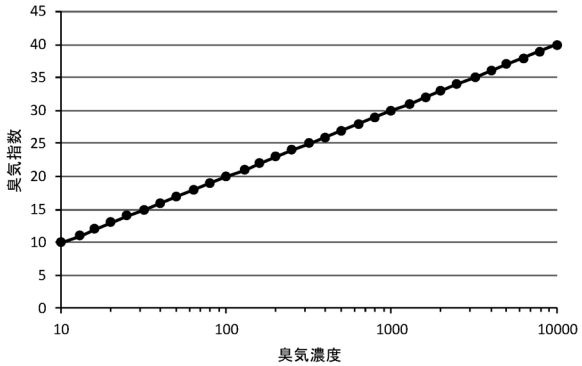
10）図表の文字および標題のフォントは明朝体の全角を使用してください．図表中の文字のサイズは 8pt 程度としてください．

11）本文中に使用した図表は別ファイルでも提出してください．

図表の例を表－1 および図－1 に示します．

表－1　邦語で構成した表の例（邦語表題が 1 行を超えるときは，インデントして折り返す）

測定点	気温（℃）	湿度（%）	臭気指数
A	15.3	60	15
B	14.7	63	12
C	14.5	68	10 未満



図－1　臭気指数

5.　用語・術語などの用法

1）原則として，関連分野学術用語集の用語などによります．

2）学術用語は原則として文部科学省編の「学術用語集」に従います．前項の用語集にない用語については，JIS 用語その他の適当と思われる慣用語を用いてください．

3）内容表現に適切と思われる特例の用語を用いる場合は，最初に出るところでことわりを入れてください．

記述例 ： ニオイ（以後“におい”にこの表現を用いる）

4）漢字，かな，送り仮名などに関しては，現代仮名遣い辞典を参考としてください．

5）文章内に用いる技術用語，専門用語などの外国語は，原則として原綴り（できるだけ英語綴りを用いる）とします．ただし，一般化されているもの，あるいは術語となっているものはカタカナを用います．

6）単位・量は特別の理由のない限り SI 単位を用います．

7）数字，数式および数式表示

・数量や序数を表す数字はアラビア数字を用い，漢字と結

Presented by Medical*Online

合して名称や概数を表す場合は漢数字を用います.
記述例 ：10m,図－1，表－2，第 5 章，三角形，二，三の例，一例として

・小数点や桁区切りは，0.123 や 456789 などのように書き，.123 や 456,789 のようには書かないでください.
・数式を文中に書く場合には，原則として 1 行におさまる表記法を用い，使用する記号の説明および単位とともに明瞭に表示してください.
・文中とは別に式だけを書く場合は，数式エディタなどを使用してください.
・数式表示の形式は，理解しやすい表記としてください.

8)略記など

化合物などの化学式や略号の表現，長い用語の略記は使用してもかまいません．ただし，最初に出るところで正しい日本名または原語名を示してください．化合物名は原則として IUPAC に従います．におい・かおり関連の化合物名は慣用名を使用してもよいこととします．記述例 ：メチルメルカプタン（以後 MM と略記する）

1)から 8)に関して，編集委員会から変更などの指示があった場合にはこれに従っていただきます.

6. その他の留意事項

1)一般に公表されていない文献資料，パンフレットなどからの引用はできるだけ避けてください.
2)私信および投稿中の物は，入手先，投稿先などを明示し，そのコピーを添付してください.

キーワード：明朝体 8.5pt，5 ワード程度，2 行以内

参考文献の記載例

参考文献は出所およびその部分を明確にし，本文中右肩に片カッコ付で表示してください.

原則として日本語文献は全角文字を用い，英語文献は半角文字を用います.

英語文献の著者名は，“and” などの接続詞を用いてもよいこととします.

報文またはノートとして受理され，巻が未決定のものは，“in press”または“印刷中”として文献欄に記してください．ただし，DOI が付与されている場合は明記してください.

［雑誌］ 参考文献の記載例：1)，2)

・著者名，（連名者も記載）：表題，雑誌名（略号可），巻，開始頁-終了頁，発行年.

［単行本］ 参考文献の記載例：3)，4)

・著者 ：発行年，表題，“書名”，p○-○，出版社.

［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］参考文献の記載例：5)，6)

・著者（編集者または監修者）：発行年，表題，“ 書名”，p ○ - ○，出版社.

※［単行本］および［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］の外国語文献著者名表記について，ファーストネームはイニシャル表記でも可.

［辞典，便覧，白書など］ 参考文献の記載例：7)，8)

・編集者または発行所名 ：発行年，“ 書名”，p ○ - ○，編集者と異なる場合は出版社.

［その他］ 参考文献の記載例：9)，10)

・学会発表，社内報告，年報，紀要など

以下に記載例を示します．フォントは明朝体の 8.5pt を用いてください.

1)神田太郎，本郷次郎 ：においの特性，におい・かおり環境学会誌，**34**，35-45,2003. doi:10.2171/jao.34.35.

2)Dravnieks, A. and Jarke, F. : Characteristics of odor exhausted from many plants, *J. Air Pollut. Control Assoc.*, **30**, 1284-1289,1980.

3)文京太郎 ：2003，住空間における各種脱臭法の評価，“ 脱臭法”，p12-56，科学出版.

4)Robert West : 2000, Deodorization methods of high strength of VOCs, in *Odor Research*, p155-186, Academic Press New York.″

5)香料三郎（香 花子編集（または監修））：2001，匂い香りが生体に及ぼす効果，“ 香りの評価”，p455-480，東京出版.

6)Hanako Abe (ed. Kenji Inoue) : 2003, The mechanism of olfactory fatigue, in *Evaluation and Measurement of Odor*, p 467-492, Academic Press New York

7)におい・かおり環境協会編（環境省大気保全局大気生活環境室監修）:1998，“最新「においの用語と解説」”，p 5-6.・中村運訳・編:1992，“分子生物学辞典”，p 476，化学同人.

8)日本化学会編 ：2003，“応用化学編（Ⅱ），化学便覧第 6 版”，p 598，丸善.

9)東神田研 ：各種脱臭法の比較，第 13 回におい・かおり環境学会講演要旨集，25-26，2001． 社内報告，年報，紀要などは学会発表記載例に準ずる.

10)Dunn, D., Smith, M. and Brenner, M. : Deodorization mechanism of VOCs by biofilter, *Proceedings in the 50th International Symposium of deodorization, June 6-10, Ottawa*, 11-12,2003.

Presented by Medical*Online

Print Sample of English Manuscripts for Transactions of Journal of Japan Association on Odor Environment

Tarou KYUUKAKU[1, 2], Kaori SYUUKI[1*†] , Jirou SANTEN[2]

[1]Japan Association on Odor Environment

YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan

[2]Conference on Odor Environment

YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan

Abstract　This manuscript is a guide to the writing of journal JAOE . This will provide an example and directions for the layout and font size/style to be used. Please refer to this when preparing the headings, figures/tables and text of your manuscript. The manuscript should be submitted on A4 size.

The margin of the title section including this abstract should be 13mm narrower then the main text. The fonts should be 9pt of Mincho. The abstract of English is about 200 words in length. The English key words should be in 9pt and about 5 words.

Key words : Mincho 8.5pt, About 5 words, Within 2 lines

Presented by Medical*Online

におい・かおり環境学会誌　執筆の手引き（ノート）

嗅覚　太郎[1, 2]，臭気　香[1*†]，三点　次郎[2]

[1]公益社団法人におい・かおり環境協会　〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 6-6
[2]におい・かおり環境学会誌　事務局　〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町 6-6

この原稿は，におい・かおり環境学会誌のノートの執筆の手引きです．ここに，原稿を作成するのに必要なレイアウトやフォントに関する情報を記述しています．この原稿作成例を参考にして，題目や文章，図表などをレイアウトしてください．

この要旨を含め，邦文題目部分の幅は本文よりも左右 13㎜ ずつ狭くします．要旨のフォントは明朝体の全角 8.5pt を用いてください．ノートの要旨の長さは 200 字以内です．

原稿本文

原稿は原則として，常用漢字，現代仮名遣いを用いて記述してください．平易な表現で丁寧に内容を記述し，記述の内容の解釈が読者によって異なることのないように配慮願います．また，内容の理解に特殊な知識などを要する場合には補遺での解説，補足を付け足してください．句読点は，日本語では全角カンマ「,」と全角ピリオド「.」を用い，英語では半角カンマ・スペース“,”と半角ピリオド“.”を用いてください．機種依存文字（① ②③ⅠⅡⅢ㊤㊥ ㊦など），半角カタカナは用いないようお願いします．

全体のレイアウト

ここでは，原稿全体に関わるレイアウトについて説明します．

原稿は，次の 3 つの部分で構成します．

①邦文題目部分：横 1 段組
（題目，著者名，所属機関名，同住所，E-mail，要旨）
②本文部分：横 2 段組
③英文題目部分：横 1 段組
（題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨，キーワード）

原稿用紙は，A4 判の縦の白紙を使用し，横書きとします．

基本的なマージンは，次のとおりです．

上マージン　：約 25㎜
下マージン　：約 25㎜
左右マージン：約 20㎜
ただし，題目部分の左右マージンは 33㎜

ヘッダは事務局で入れます．フッタにはページ No. を中央に挿入してください．

報文題目部分のレイアウト

邦文題目部分は，題目，著者名，所属機関名，同住所，要旨から構成されます．それぞれ，次の順に横 1 段組で記載してください．

主題	：17pt，センタリング
行間スペース	：約 8㎜（副題があるとき） 約 8.5㎜(副題がないとき)
副題：	：10pt，センタリング
行間スペース	：約 8.5㎜
著者名（姓名順）：	：11pt，センタリング
行間スペース	：約 5㎜
所属機関，同住所	：8pt，センタリング
行間スペース	：約 5㎜
要旨	：8.5pt，1 行およそ 50 文字，7 行以内
行間スペース	：約 5㎜
キーワード	：8pt，5〜7 語，2 行以内

本文部分のレイアウト

本文は 2 段組みとし、文字間隔は，1 段 1 行が全角で約 25 文字，1 ページ約 40 行となるよう調整してください．

本文のフォントは明朝体の 9pt を用いてください．

脚注は本文の下に線を引き，分けて印字する．脚注は本文の行数には含まれません．

ノートに関してはポイントシステムによる項目分けを行わず，太文字で項目見出しを作成し，内容を段落として区別します．詳細は執筆要綱の表－2（2）ノートの構成と内容を参照してください．

数式は，次に示す（式 1），（式 2）のように，全角 1 字分下げて書いてください．

$$f(x) = a_0 + \sum_{n=1}^{\infty}\left(a_n \cos\frac{n\pi x}{L} + b_n \sin\frac{n\pi x}{L}\right) \qquad (式 1)$$

$$x = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2a} \qquad (式 2)$$

数学記号は，文章中に出てくる場合も，数式のフォントと同じものを用いてください．

* Corresponding author : E-mail jaoe@orea.or.jp
ただし、責任著者が 2 名の場合は，*Corresponding authors : E-mail　jaoe@orea.or.jp(T Shuuki)，info@orea.or.jp(J Santen)と表記
†におい・かおり環境アドバイザー

Presented by Medical*Online

式番号は括弧書きで右詰めにします.

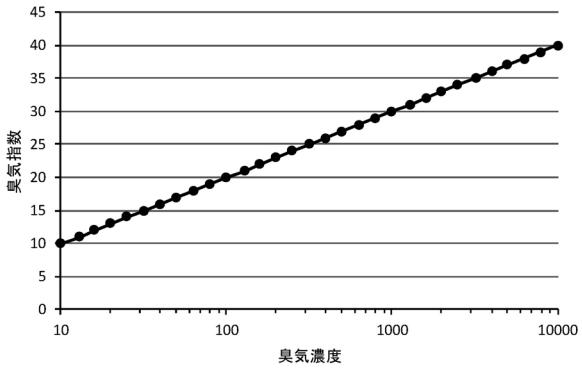
図表

1) 図・表・写真などは重複を避け，十分に選択の上，最小限にとどめてください.
2) 図・表・写真の基になったファイルを 1 枚ごとに別紙（A4）とし，各葉ごとに著者名と図・表番号を右下のところに付けてください（写真は図として扱います).
3) 図・表の番号は図－1，図－2，表－1，表－2 などと記入し，図についてはその下側，表についてはその上側に，その番号および標題を必ず記入してください.
4) 図・表には，内容を的確に表す標題を付け，かつ，はっきり見えるものを提出してください.
5) 図・表の標題，内容，説明などは和文，英文のいずれかに統一してください.
6) オンライン誌はカラー掲載が可能ですが,冊子印刷はモノクロ印刷となります.もし冊子印刷でカラー図･表の掲載を希望する場合には，投稿の際に当編集委員会までその旨を連絡願います. この場合,その実費は著者負担とします.
7) 写真データの解像度は 300dpi 以上とし，データ型式は JPEG などとします.
8) 図や写真をスキャンする場合，カラー原稿のスキャンモードは RGB (24bits)，解像度 300dpi, JPEG 形式などとします. モノクロ原稿の場合，スキャンモードを Grayscale（8bits)，解像度 300dpi, JPEG 形式などとします.
9) 図やグラフなどのバックには色や灰色を使わず白とします.
10) 図表の文字および標題のフォントは明朝体の全角を使用してください. 図表中の文字のサイズは 8pt 程度としてください.
11) 本文中に使用した図表は別ファイルでも提出してください.

図表の例を表－1 および図－1 に示します.

表－1　邦語で構成した表の例（邦語表題が 1 行を超えるときは，インデントして折り返す）

測定点	気温（℃）	湿度（%）	臭気指数
A	15.3	60	15
B	14.7	63	12
C	14.5	68	10 未満



図－1　臭気指数

用語・術語などの用法

1) 原則として，関連分野学術用語集の用語などによります.
2) 学術用語は原則として文部科学省編の「学術用語集」に従います. 前項の用語集にない用語については, JIS 用語その他の適当と思われる慣用語を用いてください.
3) 内容表現に適切と思われる特例の用語を用いる場合は，最初に出るところでことわりを入れてください.
記述例 ： ニオイ（以後“におい”にこの表現を用いる）
4) 漢字, かな, 送り仮名などに関しては, 現代仮名遣い辞典を参考としてください.
5) 文章内に用いる技術用語, 専門用語などの外国語は, 原則として原綴り（できるだけ英語綴りを用いる）とします. ただし，一般化されているもの，あるいは術語となっているものはカタカナを用います.
6) 単位･量は特別の理由のない限り SI 単位を用います.
7) 数字，数式および数式表示
・数量や序数を表す数字はアラビア数字を用い，漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を用います.
記述例 ： 10m, 図－1，表－2，第 5 章，三角形，二，三の例，一例として

・小数点や桁区切りは，0.123　や 456789 などのように書き，.123 や 456,789 のようには書かないでください.
・数式を文中に書く場合には，原則として 1 行におさまる表記法を用い，使用する記号の説明および単位とともに明瞭に表示してください.
・文中とは別に式だけを書く場合は，数式エディタなどを使用してください.
・数式表示の形式は，理解しやすい表記としてください.

Presented by Medical*Online

8）略記など

化合物などの化学式や略号の表現，長い用語の略記は使用してもかまいません．ただし，最初に出るところで正しい日本名または原語名を示してください．化合物名は原則として IUPAC に従います．におい・かおり関連の化合物名は慣用名を使用してもよいこととします．記述例 ： メチルメルカプタン（以後 MM と略記する）

1）から 8）に関して，編集委員会から変更などの指示があった場合にはこれに従っていただきます．

その他の留意事項

一般に公表されていない文献資料，パンフレットなどからの引用はできるだけ避けてください．また，私信および投稿中の物は，入手先，投稿先などを明示し，そのコピーを添付してください．

キーワード：明朝体 8pt，5 ワード程度，2 行以内

参考文献の記載例

参考文献は出所およびその部分を明確にし，本文中右肩に片カッコ付で表示してください．

原則として日本語文献は全角文字を用い，英語文献は半角文字を用います．

英語文献の著者名は，“and” などの接続詞を用いてもよいこととします．

［雑誌］　参考文献の記載例：1），2）

・著者名，（連名者も記載）： 表題，雑誌名（略号可），巻，開始頁-終了頁，発行年．

［単行本］　参考文献の記載例：3），4）

・著者：発行年，表題，“書名”，p○-○，出版社．

［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］参考文献の記載例：5），6）

・著者（編集者または監修者）:発行年，表題，“書名”，p○-○，出版社．

※［単行本］および［単行本分担執筆で編集者，監修者がいる場合］の外国語文献著者名表記について，ファーストネームはイニシャル表記でも可．

［辞典，便覧，白書など］　参考文献の記載例：7），8）

・編集者または発行所名:発行年，“ 書名”，p○- ○，編集者と異なる場合は出版社．

［その他］　参考文献の記載例：9），10）

・学会発表，社内報告，年報，紀要など

以下に記載例を示します．フォントは明朝体の 8.5pt を用いてください．

1）神田太郎，本郷次郎 ： においの特性，におい・かおり環境学会誌，**34**，35-45，2003.

2）Dravnieks, A. and Jarke, F. ：Characteristics of odor exhausted from many plants, *J. Air Pollut. Control Assoc.*, **30**, 1284-1289, 1980.

3）文京太郎 ：2003，住空間における各種脱臭法の評価，“ 脱臭法”，p12-56，科学出版．

4）Robert West ： 2000, Deodorization methods of high strength of VOCs, in *Odor Research*, p155-186, Academic Press New York.

5）香料三郎（香　花子編集（または監修）） ：2001，匂い香りが生体に及ぼす効果，“ 香りの評価”，p455-480，東京出版．

6）Hanako Abe (ed. Kenji Inoue) ：2003, The mechanism of olfactory fatigue, in *Evaluation and Measurement of Odor*, p 467-492, Academic Press New York

7）におい・かおり環境協会編（環境省大気保全局大気生活環境室監修）:1998，“最新「においの用語と解説」”，p 5-6.・中村運訳・編:1992，“分子生物学辞典”，p 476，化学同人．

8）日本化学会編:2003，“応用化学編（Ⅱ），化学便覧第 6 版”，p 598，丸善．

9）東神田研:各種脱臭法の比較，第 13 回におい・かおり環境学会講演要旨集，25-26，2001．社内報告，年報，紀要などは学会発表記載例に準ずる．

10）Dunn, D., Smith, M. and Brenner, M. ：Deodorization mechanism of VOCs by biofilter, *Proceedings in the 50th International Symposium of deodorization, June 6-10, Ottawa*, 11-12, 2003.

Presented by Medical*Online

Print Sample of English Manuscripts for Transactions of Journal of Japan Association on Odor Environment

Tarou KYUUKAKU[1, 2], Kaori SYUUKI[1*] , Jirou SANTEN[2]

[1]Japan Association on Odor Environment
YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan
[2]Conference on Odor Environment
YotsuyaMS-building 4F,6-6 Yotsuyasaneicho Shinjuku-ku Tokyo,160-0008,Japan

Abstract　This manuscript is a guide to the writing of journal JAOE . This will provide an example and directions for the layout and font size/style to be used. Please refer to this when preparing the headings, figures/tables and text of your manuscript. The manuscript should be submitted on A4 size.
The margin of the title section including this abstract should be 13mm narrower then the main text. The fonts should be 9pt of Mincho. The abstract of English is about 200 words in length. The English key words should be in 9pt and about 5 words.

Key words : Mincho 8.5pt, About 5 words, Within 2 lines

† Odor Environmental Advisor

Presented by Medical*Online